
お茶を飲むように

アンバサ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

お茶を飲むように

【Nコード】

N3504M

【作者名】

アンバサ

【あらすじ】

1人の男の成長の記録は、必ずあなたを幸せにするでしょう。

来訪者

じめじめとした日。朝から雨がまとわりつくように降り続けている。昼頃に起きた男は暫くは部屋から出ず過ごしていた。大学生くらいだろうか。カーテンも閉めたままである。適当にテレビをつけ、見るわけでもなく見ないわけでもなく、ただそこにあるものと思いいながら部屋で無為に時間を過ごす。

部屋の隅には埃がたまっているが気にはならない。どちらかというと、無造作に積まれている小学生時分に購入したセンスの悪いCDの方がよっぽど目を引く。早く捨てればいいものを、男は思い出として残している。もしかしたら捨てる場所を見られるのが恥ずかしいのかもしれない。町内で噂されるかもしれない。

「ねえちよつと奥さん、あそこに捨ててあるCD、もしかしてごくセンスが悪いんじゃないやありません？」

「まあホント。あんなにセンスの悪いCDを購入するのはピンク色の家に住んでいるあの息子くらいですわ。」

「きつと小学生時分に購入したんでしょうね。ああだやだ、恥ずかしい恥ずかしい。もっと皆に広げましょう。噂を広げましょう。」

なんて言われかねない。男は思い出と称してCDを保管しているが、町内のおばさま連中に見つかるのを恐れているのだ。男の住んでいる家はピンク色で有名である。父親がこの家を建てた時、何らかの手違いでピンク色になったのだ。父親は建築業者に文句を言ったが、「ピンク色のどこがいけないのですか。ピンク色だって立派な色です。あなたはつまらない偏見でピンク色の生存権を侵害している。多様な生活が認められている今の社会であなたの発言は極めて差

別的だ。」と建築業者は反論してきた。中卒の父親は難しい話は一切理解が出来ず、近くに落ちてあった角材で建築業者を2発殴って「わけのわからんことを言うな！」と叫んで口論は幕を閉じた。

しかし家はピンク色のままであった。

男はテレビを消し部屋を出た。階段を降り、リビングへ入る。家族は全員出ているらしく誰もいない。何か食べる物はないかと物色したが冷蔵庫にカマボコが入っているのを確認出来た程度で、他には何も目ぼしい物はなかった。

男はリビングをウロウロと歩き回っては冷蔵庫を開け、中を確認する。しかし何度開けても中身が変わるわけでもなく、そこにはカマボコが鎮座しているだけであった。男はカマボコが憎らしくなってきた。バンと冷蔵庫を閉め、再びリビングをウロウロと歩き始めた。今日は1日何も予定がないのである。男は非常に暇であったのだ。特に友達が多いわけでもなく、少ないわけでもない。一般的な数程の友達に囲まれ彼は育ち、休日になれば友達と遊ぶこともあるし、今日みたいに何も予定がない日もある。

窓から庭を見る。雨のしずくが窓を濡らしている。やむ気配はない。いかにも梅雨といった天気だ。

男が椅子に腰をかけた途端、ドアを叩く音がした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3504m/>

お茶を飲むように

2010年10月10日05時32分発行